

加藤晋平先生講演会・第128回特別例会のご案内

日 時：2011年1月29日（土）10:00～16:00

内 容：越村 篤 氏 （ふじみ野市教育委員会）

「川越街道大井宿遺跡出土の近代遺物」

成瀬 晃司 氏 （東京大学埋蔵文化財調査室）

「本郷六丁目町屋跡の発掘調査」

関根 達人 氏 （弘前大学人文学部）

「松前における近世墓標調査の成果について ―近世墓標研究の最前線―」

岩淵 令治 氏 （国立歴史民俗博物館）

「続・近世考古学雑感」

加藤 晋平 先生

「青戸御殿と私」

古泉 弘 氏 （当会世話人代表）

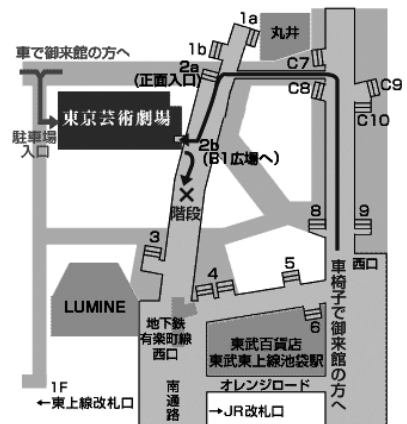
「文化財行政と近世考古学（仮題）」

会 場：東京芸術劇場 大会議室 （9月に大会を行った場所です）

交 通：池袋駅下車（「2b」出口、階段を上る。正面にある時計台が入口です。）

問 合 せ：東京大学埋蔵文化財調査室 （堀内・成瀬） 03-5452-5103

江戸遺跡研究会公式サイト <http://www.ao.jpn.org/edo/>



◇江戸遺跡研究会第127回例会は、2010年11月17日（水）午後7時より江戸東京博物館学習室2にて◇
◇行われ、石井たま子氏より以下の内容が報告されました。◇

新宿区市谷薬王寺町遺跡Ⅵの発掘調査

石井 たま子

(テイケイトレード埋蔵文化財事業部)

1 はじめに

東京都新宿区市谷薬王寺町遺跡の第6次調査（以下、市谷薬王寺町遺跡Ⅵ）は、近世を主とした遺跡であり特に町屋の時期の遺構・遺物が多く検出された。今回は主に発掘調査・整理調査から得られた、市谷薬王寺町遺跡Ⅵの町屋の時期における、土地利用の状況、出土遺物について報告する。

2 遺跡所在地（図1）

市谷薬王寺町遺跡Ⅵは、東京都新宿区市谷薬王寺町64番2外に所在する。標高23.83～24.16mに位置する。調査面積は443.2㎡で、発掘調査期間は平成20年11月18日から平成21年1月16日である。整理調査期間は平成20年12月27日から平成21年10月15日である。調査区は発生残土の処理等の都合より、東西の2区画に分け調査した。検出された遺構総数は257基、出土遺物総点数は、40,150点、総重量2,377,858.2gである。出土遺物は近世の遺物が主である。

3 歴史的環境（図2・3）

寛永10年（1633）に徳川家光の養女、大姫が拝領し、正保3年（1646）以前から明暦4年（1658）頃まで加賀藩中屋敷として使用されていたと考えられる。その後17世紀中葉には、旗本屋敷地として土地利用がなされ、元禄14年（1701）に市谷薬王寺前町と称せられる町屋となる。明治まで町屋として土地利用がなされる。

享保10年（1725）に当該地周辺は火災にあったとされており、本調査地点からも火災を起因とする焼土層・整地層が確認されている。

調査地点は、絵図資料などより、市谷薬王寺前町と称せられる町屋のほぼ中央、町屋の敷地の西端から東端まで（間口部分から奥まで）を調査したと推定される。また、文献調査の成果から市谷薬王寺前町は、表間口3～4間程度、奥行14～15間の細長い土地であったと考えられる。

薬王寺前町の名前の由来となった薬王寺は、本調査地点から外苑東通りを隔てた西側に領地を拝領している。明治38年（1905）に文京区護国寺内へ移転している。

4 時期区分（図4）

市谷薬王寺町遺跡Ⅵは、遺構確認面、出土遺物などから全体で9時期に区分される。町屋以前は3時期（Ⅰ～Ⅲ期）、町屋時期は6時期（Ⅳ-1～Ⅷ期）に分けられる。

町屋時代の時期区分は、町屋成立（元禄14年（1701）以降から享保10年（1725）の火災による廃棄遺構を含む2時期、火災後から幕末までの4時期を設定した。町屋時代の遺構は242基検出された。

時期区分

- I期 —17世紀初頭から後葉以前：大姫拝領期若しくはそれ以前
- II期 —17世紀中葉から後葉：静泰院・加賀藩中屋敷拝領期
- III期 —17世紀後葉～18世紀初頭：旗本拝領期
- IV-1期—18世紀初頭から享保10年（1725）火災まで：町屋時期
- IV-2期—享保10年（1725）の火災に起因する廃絶：町屋時期
- V期 —18世紀前葉から中葉：町屋時期
- VI期 —18世紀中葉から末葉：町屋時期
- VII期 —18世紀末葉から19世紀前葉・中葉：町屋時期
- VIII期 —19世紀前葉から中葉：町屋時期

5 町屋時代の土地利用（図5・6）

IV-1期・IV-2期の町屋成立（元禄14年（1701）以降から享保10年（1725）の火災までと、V期～VIII期の火災の後から明治前までの大きく2時期に分けて町屋時代の土地利用の詳細を確認していく。

（1）町屋拝領～享保10年火災（1725）まで（図5）

IV-1期・IV-2期（18世紀初頭～前葉）では、下水溝2条（35b号・143号、133号）と通路跡2条（144号、74号・75号・166号）が検出された。下水溝と通路跡は2間半～4間程の間隔で並ぶ。建物跡などの位置からも、こられの下水溝や通路が町屋内の区画と考えられる。また、東西方向に延びる柵列・杭列なども検出されていないことから、区画割りは下水溝や通路によりなされていたと考えられる。

建物跡は、3基（4号～5号礎石列）確認された。間口近くから検出された4号礎石列は、礎石の規模などが大きく表店に関するものと推定される。

5号礎石列の東から、表間口から7間程の位置からは柱穴列が南北に並び検出された。柱穴列の南側からは胞衣埋納遺構が4基検出されている。

さらに、享保10年（1725）の火災に起因する廃棄土坑と推定される57号、145号がそれぞれ建物跡の近くから検出されている。

（2）火災以後～明治以前まで（図6）

V期～VIII期（18世紀前葉～19世紀中葉：図5）では、下水溝4条（89号、16a号、16b号、34号・164号・183号、181号）と通路跡2条（5a号・6号）が検出された。東西方向の下水溝と通路跡は5間半～6間の間隔で並ぶ。IV-1期・IV-2期の下水溝・通路跡とはほぼ同位置から検出された。享保10年（1725）の火災以降も火災前の区画を踏襲したと考えられる。

建物跡は、4基（1号～3号礎石列・3号土蔵跡）確認された。2号建物跡と土蔵跡（3号）は表間口からはほぼ同じ奥行に位置している。

また、土蔵跡南の表間口から7間程の位置には胞衣埋納遺構が5基検出された。

その他、地下室と考えられる遺構、83号、117号、119号遺構が検出されている。

(3) 町屋時期全体

町屋時期全体を通じて概観すると、①享保10年（1725）の火災の前後において同じ区画を保っていた、②それぞれの区画内では、建物・地下室の配置などは必ずしも統一されていたわけではないこと、③しかし、調査地点では表間口より7間程の位置に隣接する区画間での、袍衣埋納位置、建物の構築位置などの共通性がみられ区画間に共通する土地利用の境が存在したであろうことが指摘できる。

6 町屋時代の遺物について（図7・表1）

遺物より市谷薬王寺前町の居住者について考察する。一括性の高い遺物が出土する遺構の遺物を中心に検討する。

享保10年（1725）の火災に起因する廃棄遺構（57号、145号）、それ以降の一括性の高い遺物が廃棄された、地下室を中心とした遺構（32号、37号、83号、117号、119号）の出土遺物を対象とする。

(1) 町屋拝領～享保10年火災（1725）まで

・57号遺構

かわらけ小皿が27個体出土している。かわらけ小皿は重なるようにまとまって出土した。57号遺構出土遺物の5割以上を占める。かわらけ小皿には灯火具としての使用痕なども見られず、享保10年（1725）の火災後の整理の際に未使用のかわらけ小皿が廃棄された可能性も考えられる。

・145号遺構

飲食器、厨房具・貯蔵具や灯火具など多岐にわたる器種がみられる。大八木氏の論考（大八木2001）にあげられている町屋の器種組成と同様な傾向を示す。その中で、播鉢も多く出土しており、播鉢の推定個体数は、炆器備前系1、陶器瀬戸・美濃系2、で合計3となる。成瀬氏の論考（成瀬2001）では、長屋跡（武家屋敷内の長屋跡）から出土する播鉢について、各住戸での基準は1.1倍としており、145号遺構より出土している遺物は数戸分のものの可能性が窺われる。145号遺構東側からは6号礎石列が検出されており、長屋跡と推測される6号礎石列の居住者数戸分の生活道具が廃棄された可能性も考えられる。

(2) 火災以後～明治以前まで

・37号遺構

18世紀中葉以降の廃絶（Ⅵ期）と推定される。出土遺物は飲食器、厨房具、貯蔵具など多様である。しかし、灯火具は破片2点が確認されるのみである。本調査地点では、あまり確認されなかった、焼塩壺が2個体出土している。

・32号遺構

18世紀末葉～19世紀前葉・中葉に廃絶（Ⅶ期）されたと推定される。完形に近い個別別資料が多く出土したこと、二次被熱痕なども見られないことなどから、移転に伴い廃絶された遺物と考えられる。出土遺物は飲食器、厨房具、貯蔵具、園芸・飼育道具、灯火具など多様なものがみられる。ミニチュア土鍋、泥面子、土玉も13個体確認され他の遺構に比べ多く出土している。瀬戸・美濃系の陶器陶体染付の碗と五寸皿が1個体ずつ出土している。

・83号、117号、119号遺構

18世紀末葉～19世紀前葉・中葉に廃絶（Ⅶ期）されたと推定される、地下室を転用した廃棄土坑である。出土遺物は飲食器、貯蔵具、灯火具などがみられる。117号からは中国系磁器大碗が出土している。

（3）町屋時期全体（図7・表1）

以上の遺物を概観すると、遺物の器種組成は前述の大八木氏の論考（大八木2001）の町屋の器種組成とほぼ同じ広がりを示す。しかし、表間口に近い遺構より出土している遺物は、かわらけ小皿が多い（57号）、灯火具が少ない（37号）など器種組成にややかたよりが見られた。また享保10年（1725）の火災後の遺物には、磁器碗が多く見られる。

磁器碗：18世紀第4四半世紀～19世紀初頭における、肥前系磁器の半球碗（16類）、肥前系磁器の小丸碗（18類）、肥前系磁器の半筒碗（19類）に関して（図7）、長佐古氏の論考（長佐古2009）では、半球碗（16類）がどちらかという高い階層に多く見られ、半筒碗（19類）は低い階層にみられるとしている。小丸碗（18類）は半球碗（16類）と半筒碗（19類）の中間的様相を呈するとしている。32号、37号、83号、117号、119号遺構からは、半球碗（16類）は破片5点、小丸碗（18類）は個体1点・底部破片3点、半筒碗（19類）は底部破片で2点確認されるのみであった。上記の遺構から出土した碗類は全体的には陶器碗が少なく、瀬戸・美濃系の磁器碗とくに端反碗が多くみられる。

陶器碗：長佐古氏は前述の論考（長佐古2009）にて、18世紀第4四半世紀～19世紀初頭における京・信楽系小杉碗（117類）について（図7）、「上位階層における日常喫茶茶碗の選択に117類への偏重嗜好が窺える」としている。上記遺構から出土した117類は32号遺構からの底部破片1点のみである。

32号遺構からは瀬戸・美濃系陶器の陶体染付（太白手）の五寸皿と碗が各1点出土している。太白手は「江戸市中と比較して、周辺村落部には相対的に多いという地域的偏在」（長佐古1991）が指摘されており、市谷薬王寺前町の地域性、及び居住者の階層が窺える。

しかし一方、117号遺構からは、中国系磁器大碗なども出土しており、嗜好性の高い遺物も見られる。また、7号遺構（Ⅶ期）からは、賤機焼の香合なども出土している。

7 まとめ

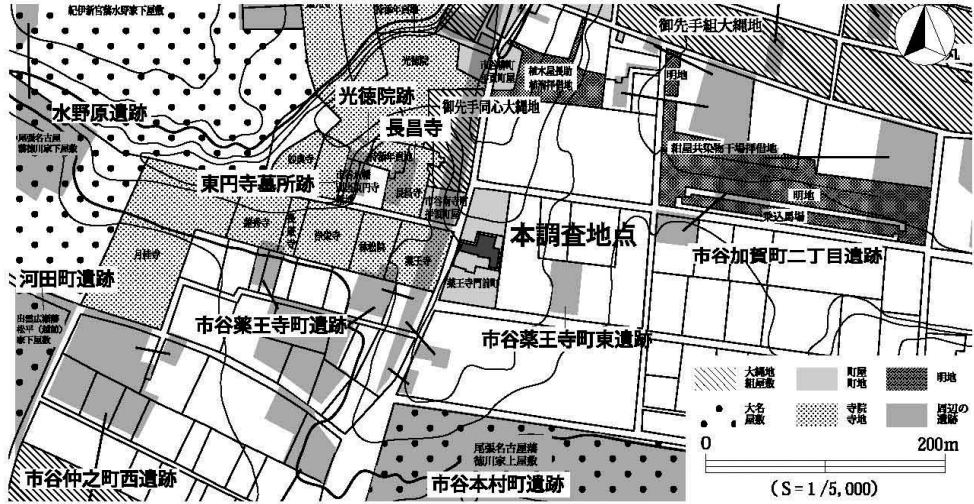
市谷薬王寺前町では、薬王寺に向かい、現在の外苑東通りに面して、表店が配置され、店の裏手に居住区間が配置されたと考えられる。また、表間口より7間程の位置には、胞衣埋納遺構が集中するなど隣接する区間での土地利用の境も確認された。さらに、市谷薬王寺前町の居住者は、村落に見られるような遺物を所持している者がいたが、一方で中には、文献調査の成果からも武士の隠居者が居住していたことも確認されていることなどから、嗜好性の高いものを所持するものもいたと考えられる。

引用文献

大八木謙司 2001 「食生活の道具復元に向けて―新宿区の江戸遺跡を中心に―」『江戸遺跡研究会第14回大会 [発表要旨] 食器にみる江戸の食生活』江戸遺跡研究会

長佐古真也 1991 「瀬戸美濃産「太白焼」小考」『研究論集X』（財）東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター

長佐古真也 2009 「東京都の遺跡における江戸時代後期“庶民向け陶磁器”の―様相」『第19回九州近世陶磁学会資料 江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通（関東・東北・北海道編）』九州近世陶磁学会



※ 『江戸版図』 1/5000 (東京都教育委員会 1967年) をもとに 『東京奥地図 (東京北西部)』 1/5000 (参謀本部陸軍測量局 1887年) の等高線を整合させ、新宿区教育委員会「新宿区遺跡分布図」に加筆・修正を行っている。

図1 調査地点位置図

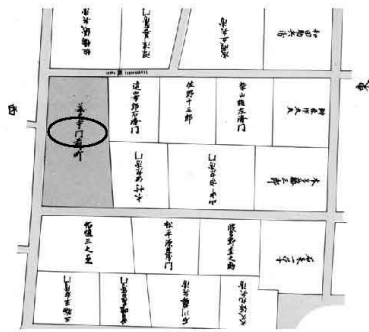


図2 『御府内沿革図書』
「元禄十四年巳年之形」(1701年)

(「地図で見る新宿区の移り変わり—牛込編—」東京都新宿区教育委員会 1962 より)

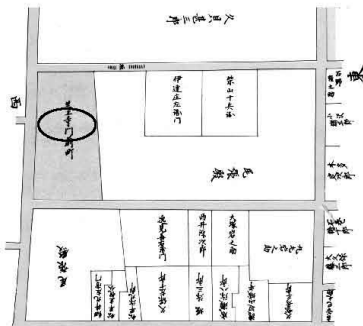


図3 『御府内沿革図書』
「当時之形」天保元年(1830年)

(「地図で見る新宿区の移り変わり—牛込編—」東京都新宿区教育委員会 1962 より)

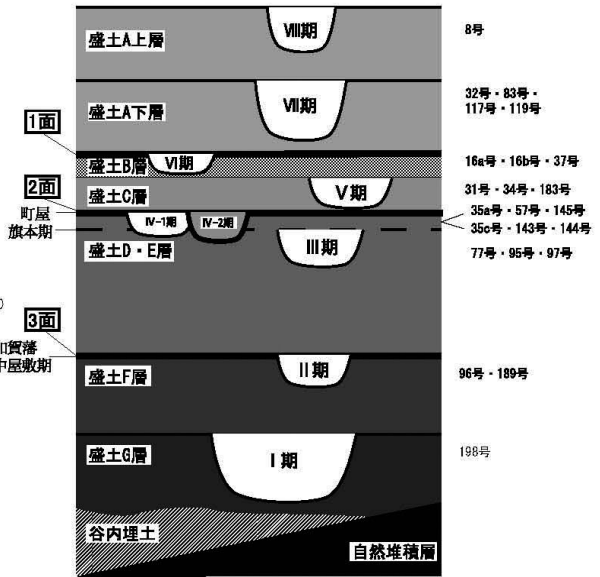


図4 調査区断面概念図

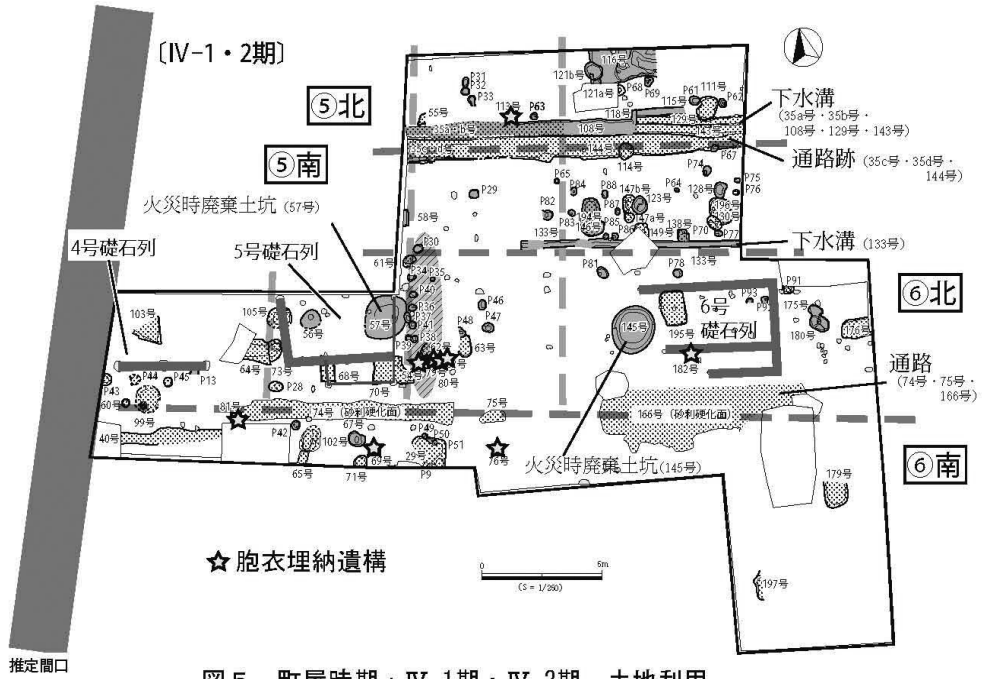


図5 町屋時期：IV-1期・IV-2期 土地利用

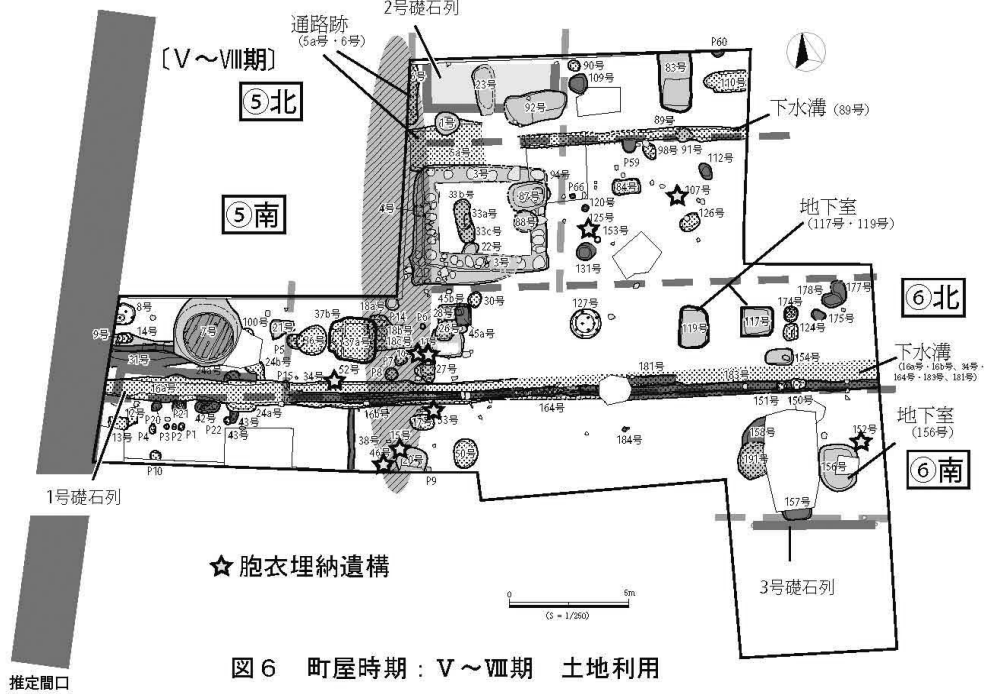


図6 町屋時期：V～Ⅷ期 土地利用

磁器碗

陶器碗

16肥半球



肥前半球碗
(16類)

18肥小丸



肥前小丸碗
(18類)

19肥筒



肥前筒形碗
(19類)

117京信小杉



瀬戸・美濃
小杉碗(117類)

142瀬太白



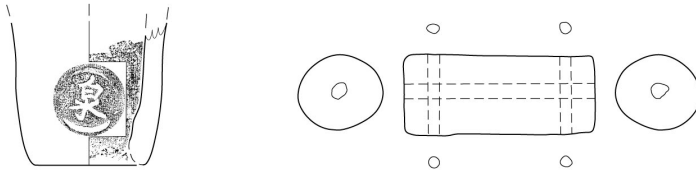
瀬戸・美濃
太白手(142類)

図7 磁器碗・陶器碗(長佐古2009より)

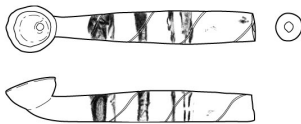
表1 遺構出土碗類

遺構名	肥前半球碗 (16類)		肥前小丸碗 (18類)		肥前筒形碗 (19類)		肥前広東碗 (23類)		肥前端反碗 (25類)		瀬戸・美濃 広東碗(27類)		瀬戸・美濃 端反碗(28類)		瀬戸・美濃 小杉碗(117類)		瀬戸・美濃 太白手(142類)	
	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体	破片	個体
32号遺構	1	0	0	0	0	0	3	0	0	3	1	3	3	11	1	0	0	1
37号遺構	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
83号遺構	1	0	1	0	2	0	3	0	2	3	2	0	5	6	0	0	0	0
117号遺構	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0
119号遺構	1	0	0	1	0	0	2	4	1	1	0	1	1	3	0	0	0	0

盛土B層(18世紀中葉構築)出土遺物



盛土C層(18世紀前葉構築)出土遺物



016号(18世紀中葉~末葉以降廃絶)遺構出土遺物

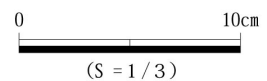
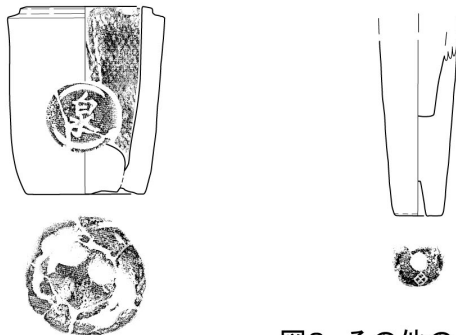


図8 その他の出土遺物

最近の近世考古学関連文献

【単行本】

- 関 和男編 2010.9 『改訂版 初期鍋島』創樹社美術出版
東中川忠美編 2010.6 『発見 江戸のモダニズム 古武雄 ー独創 忽然と現れた華やぎの世界ー』
平野 恵 2010.11 『温室』ものと人間の文化史152 法政大学出版局
石井龍太 2010.12 『島瓦の考古学 ー琉球と瓦の物語ー』新典社選書39

【展示図録】

- 瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2010.12 『関西出土の近代陶磁 ー瀬戸・美濃窯の近代4』
平成22年度 (財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター企画展

【発掘調査報告書】

○港区

- 港区教育委員会 2010.3 『播磨赤穂藩森家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 II』港区近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告 53

※大名屋敷と旗本屋敷とで異なる造成のあり方が観察され、近世の境堀、護岸石垣、赤穂藩森家の家紋付瓦、近代の学用品などを検出。

○豊島区

- としま遺跡調査会 2010.2 『染井XV ー東京都豊島区・染井遺跡（ホテルメッツ駒込地区）の発掘調査ー』としま遺跡調査会調査報告 2

※植木屋、伊藤太郎吉家の敷地境と、植木関連の遺構群を検出。

- 豊島区教育委員会 2010.10 『染井XVI ー東京都豊島区・染井遺跡（三菱重工巣鴨社宅地区）の発掘調査ー』豊島区埋蔵文化財調査報告 31

※津藩藤堂家下屋敷並びに抱屋敷内の植栽（庭園）空間の一面を調査。

- 東京都埋蔵文化財センター 2010.3 『豊島区 染井遺跡2 ー放射第9号線（Ⅲ期）拡幅事業に伴う調査ー』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第242集

※津藩藤堂家下屋敷に伴う堀跡、御薬園（巣鴨薬園）の境堀跡などを検出。

- 豊島区遺跡調査会 2010.11 『巣鴨町Ⅷ ー東京都豊島区・巣鴨遺跡（ジェイフラッツ巣鴨地区）の発掘調査ー』豊島区遺跡調査会調査報告 20

※近代にかけての巣鴨町の町屋と推定される。近世には敷地内を溝や生垣によって区分して土地を利用していた。

- としま遺跡調査会 2010.3 『巣鴨町XⅢ ー東京都豊島区・巣鴨遺跡（庚申塚マンション地区）の発掘調査ー』としま遺跡調査会調査報告 3

※町屋の調査。近世から明治期は植栽痕が主。大正期に入り生活遺構が多出。

豊島区遺跡調査会 2010.3 『雑司が谷V ー東京都豊島区・雑司が谷遺跡 環状第5の1号線（雑司が谷地区）整備事業に伴う発掘調査ー』豊島区遺跡調査会調査報告 24

※町人地・村落の調査。

○台東区

台東区文化財調査会 2010.6 『入谷遺跡下谷二丁目2番地点 ー集合住宅建設工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 14

※寺院跡、町屋の調査。浄土宗良感寺と坂本村の境界地。「入谷土器」製品など出土。

台東区文化財調査会 2010.8 『入谷遺跡 下谷二丁目1番地点 ー集合住宅建設工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 16

※寺院、町屋跡の調査。浄土宗良感寺と坂本村の境界地。「入谷土器」生産関連資料など出土。

台東区文化財調査会 2003.2 『二長町東遺跡 台東一丁目34番地点』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 17

※巖原藩対馬宗家上屋敷・下級武家屋敷敷地境の大型石組水路などを検出。

台東区文化財調査会 2003.3 『浅草菊屋橋遺跡／No.66遺跡 ー東京都下水道局寿一丁目、二丁目付近再構築工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 22

※竜宝寺内の墓域調査。寺院内における火災廃棄土坑を検出。

台東区文化財調査会 2005.3 『茅町二丁目遺跡 池之端一丁目5番地点（本郷台遺跡群・湯島両門町遺跡湯島四丁目12番地点 ー（仮称）忍岡住宅改築工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 26

※大名屋敷（前田家富山藩上屋敷）、寺院（講安寺、称仰院）の調査。藩邸、寺院地境石組水路遺構、墓壇などを検出。オランダ、中国、赤膚焼、偕楽園製陶磁器などが出土。

台東区文化財調査会 2005.3 『芝崎町三丁目遺跡 西浅草三丁目27、28番先地点 ー東京都下水道局による管渠改良工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書27

※慶印寺内の墓域を検出。墓壇30基検出。

台東区文化財調査会 2005.3 『西町遺跡 東上野二丁目23番地点 ー東京都下水道局による東上野六丁目、東上野二丁目再構築工事に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 28

※武家屋敷跡の調査

テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部 2010.2 『浅草松清町遺跡 西浅草一丁目1番8号地点 ーマンション新築に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 43

※寺院跡（大松寺、崇福寺）の調査。境内地境石組、墓域、建物跡などを検出。

テイケイトレード株式会社埋蔵文化財事業部 2010.3 『中根岸遺跡 根岸三丁目12番40号地点 ー根岸三丁目地区住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 44

※寺院、百姓地の調査。杭列を伴う建物遺構などを検出。

加藤建設株式会社 2010.6 『北稻荷町遺跡 ー（仮称）東上野五丁目共同ビル計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 46

※寺院跡（広徳寺）の調査。大形地境溝、建物跡などを検出。墨書や刻印荷札などが出土。

株式会社ジオダイナミック 2010.7 『仲御徒町三丁目遺跡 上野五丁目27-8地点第2次調査 ーJR御徒

町駅バリアフリー施設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2-』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書
47

※御徒組組屋敷跡の調査。地境と推定される溝状遺構などを検出。

台東区文化財調査会 2010.10 『二長町北遺跡 台東一丁目34番地点 一集合住宅建設工事に伴う事前
発掘調査報告書-』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 48

※武家屋敷跡の調査。

台東区文化財調査会 2010.10 『谷中清水町遺跡 池之端四丁目22番地点 一集合住宅建設工事に伴う
緊急発掘調査報告書-』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 49

※三河吉田藩松平（大河内）家屋敷跡の調査。

台東区文化財調査会 2010.11 『豊住町遺跡 下谷一丁目5番地点 一集合住宅建設工事に伴う緊急発掘
調査報告書-』台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 50

※寺院跡町屋の調査。

東京芸術大学埋蔵文化財発掘調査団 2010.3 『上野忍岡遺跡群 一東京芸術大学音楽学部2号館地点
東京芸術大学美術学部排水処理施設地点 発掘調査報告書-』東京芸術大学構内遺跡発掘調査報告書
2

※東叡山寛永寺子院の調査。地境溝、土坑などを検出。

○新宿区

加藤建設株式会社 2010.4 『東京都新宿区 筆筈町遺跡 一（仮称）筆筈町共同住宅新築工事に伴う埋
蔵文化財発掘調査報告書-』

※町屋跡の調査。享保15年の火災に伴う一括廃棄資料や、18世紀末～19世紀前葉の薩摩焼など出土。

東京都埋蔵文化財センター 2010.7 『新宿区 内藤町遺跡 一新宿御苑大温室の整備に伴う埋蔵文化財
発掘調査-』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第246集

※内藤家下屋敷の調査。邸内区画溝、地下室、植栽痕、土坑など多数の遺構を検出。

東京都埋蔵文化財センター 2010.12 『新宿区 水野原遺跡 V 一都営若松町アパート埋蔵文化財調査
-』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第252集

※水野家下屋敷裏手斜面地を利用した雛壇状の段切り、畝状遺構などを検出。水野家のお庭焼である
「三楽園焼」と窯道具が出土。

○文京区

大成エンジニアリング株式会社 2010.6 『東京都文京区 駕籠町遺跡 第3地点 一東洋文庫事務所建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

※大名屋敷の調査。大形の区画溝とそれに平行する柱穴列などを検出。

大成エンジニアリング株式会社 2010.6 『東京都文京区 小石川三丁目遺跡 一文京区小石川三丁目13
番10号地点の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

※伝通院境内裏手の斜面地の調査。

大成エンジニアリング株式会社 2010.6 『東京都文京区 小日向三丁目東遺跡 第2地点 一拓殖大学文
京キャンパス整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

※大名屋敷（安藤家下屋敷～戸田家下屋敷）の調査。19世紀の遺構から戸田家家紋瓦などが出土。
東京都埋蔵文化財センター 2010. 3 『文京区 後楽二丁目南遺跡 -後楽二丁目西地区第一種市街地再
開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告-』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第241集

※江戸初期の幕府による江戸城外の宅地開発の過程が明らかになった。

東京都埋蔵文化財センター 2010. 12 『文京区 護国寺境内遺跡 -重文護国寺月光殿（旧日光院客殿）
建造物保存修理事業に伴う発掘調査-』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第251集

※護国寺境内の調査。大形遺構、土坑、焼土跡、植栽痕、礎石などを検出。護国寺創建時の遺構・遺
物と、西国三十三所写に関連する土製の縁起小判が多数出土。

武蔵文化財研究所 2010. 6 『東京都文京区 大塚町遺跡第6地点 -お茶の水女子大学（大塚2団地）学
生寄宿舎建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

※安藤家下屋敷の調査。地下室、大形土坑、溝などを検出。

東京都埋蔵文化財センター 2010. 3 『文京区 大塚町・大塚・大塚二丁目北遺跡 -一般国道254号小
日向拡幅事業に伴う発掘調査-』東京都埋蔵文化財センター調査報告 第243集

※大塚町遺跡：磐城平藩安藤家下屋敷地境溝、大塚遺跡：旗本屋敷地境溝、大塚二丁目北遺跡：町屋
成立期の大型土坑

○渋谷区

大成エンジニアリング株式会社 2010. 3 『東京都渋谷区 青山学院構内遺跡 第4地点 -青山学院青山
キャンパス内大学A棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』

※大名屋敷の調査。瓦積みの地下室、緑泥片岩製大形板石設置遺構などを検出。役所名墨書記載陶磁
器出土。

江戸遺跡研究会編刊行物のご案内

吉川弘文館より、当研究会大会の成果2冊が、下記の通り出版されます。

『江戸の大名屋敷』

刊行日：2011年1月18日

定価：6,500円＋税

ISBN：9784642034456

『江戸時代の名産品と商標』（仮題）

刊行予定日：2011年2月15日

定価：6,600円＋税

ISBN：9784642034463